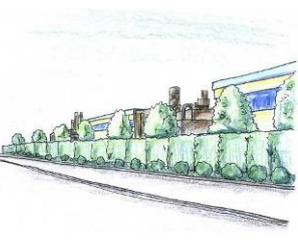


工業系用途 景観形成のコンセプト

本市では、火薬廠跡や相模川沿いに集積する工場群を始め、市街地に点在する工場地が作り出す工業地景観が、市の景観の特徴のひとつとなっています。また、塀の生垣化や敷地内の緑化に積極的に取り組む工場や事業所が増加しています。本市の活力のみなもとであり、緑があふれた親しみのある工業地景観を創出するため、工業系用途の施設は、地域の魅力や活力を引き出すとともに、市民に親しみやすいおいしいデザインを考えていきましょう。

項目別デザイン基準

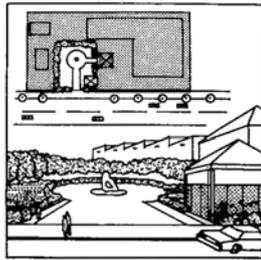
<p>① 周辺との 関わりを考える 位置・配置 高さ・規模</p>	<p>工業系用途の施設は、敷地や建物の規模が大きいことから、存在感が強く、地域の景観を特徴づけるものです。周辺環境に配慮しながら、敷地の利用方法や建物の配置、規模を工夫することにより、快適で魅力ある工場景観を創出しましょう。</p> 
<p>② 質を高める 外構・緑化</p>	<p>工業系用途の施設の圧迫感を和らげ、地域の質を高めるためには、通りから見える景観に配慮することが大切です。敷地の境界部は、できるだけ空間にゆとりを持たせ、緑を効果的に活用することにより、歩行者の目をうるおすような外構を整備しましょう。</p> 
<p>③ まちなみを彩る 形態意匠 素材</p>	<p>工業系用途の施設は、企業メッセージを発信するとともに、市民に親しまれることが求められます。規模が大きい工業系施設は、デザインが単調になりがちです。壁面は、分節化したり曲線を織り交ぜるなどして、変化ある表情をつくりましょう。またコーポレートカラーは、アクセントとして効果的に活用しましょう。</p> 

① 周辺との関わりを考える

位置・配置

■ 土地造成

- 当該地域の景観特性に配慮し、地域特有の眺望や樹木等を保全・活用する計画としましょう。
- 切土・盛土など、土地の形状を変更する場合は、できる限り自然の地形をいかすとともに、周辺に圧迫感を与えないよう、高さや土留めなどの構造に配慮しましょう。
- 工場地をデザインする際は、通りに面して緑豊かなcommonsスペース等を積極的に配置しましょう。

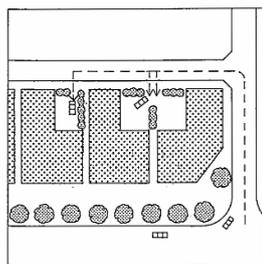


■ 建物

- 敷地が十分大きい場合は、周辺に圧迫感を与えないよう、道路等の公共空間から距離をとった配置としましょう。
- 建物配置に変化をもたせることにより、表情豊かな空間の創出に努めましょう。

■ 駐車場

- 駐車場や駐輪場は、なるべく目立たない配置としましょう。



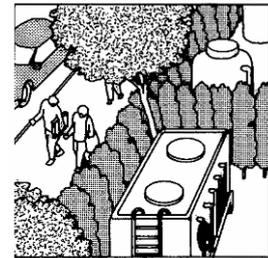
右：駐車場を裏側の配置とし、出入口以外を植栽で遮蔽している事例

■ 設備機器等

- 鉄塔・煙突は、通りから目立たない位置に配置し、色彩は周辺環境との調和に配慮しましょう。



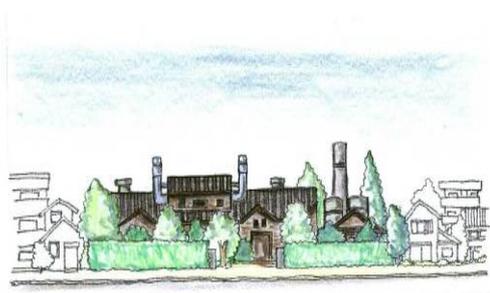
- 給水塔や空調の室外機・配管・ダクト・ゴミ置き場・プロパン庫等の工作物・設備類は、集約し、建物内部に取り込むか、道路・公園・広場等の公共の場から見えない場所に設置しましょう。



高さ・規模

■ 建物

- 建物の規模は、周辺との調和に配慮し、圧迫感を与えないようにしましょう。



② 質を高める

外構・緑化

■ 緩衝緑地帯

○緑の連続性の確保や、周辺への圧迫感をやわらげるため、敷地の境界に沿ってその内側に緩衝緑地帯を設置しましょう。

○緩衝を目的とした植栽の幅は、最低3m程度必要です。

■ 塀・フェンス・生垣

○通りに面する工場のブロック塀や金網フェンスは、撤去又は後退し、道路沿いには、周辺の街路樹等と調和した遮蔽効果のある植栽を行きましょう。やむを得ずフェンス等を設置する場合は、植栽の内側に設置するようにしましょう。



右写真：植栽の内側にフェンスを設置している事例



■ 緑化

○通りに面する境界部は、周辺の良好な自然環境や街路樹に調和するような植栽を行い、緑量を確保しましょう。

右写真：道路境界部に高木の並木をつくっている事例



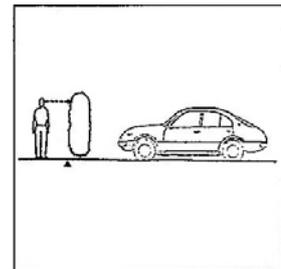
○市街地に工場を立地する場合は、うるおいとやすらぎのあるまちなみの形成を図るために、工場の内部の植栽を行きましょう。



右写真：フェンスにバラをからませ修景している事例

■ 駐車場

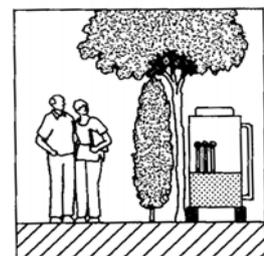
○駐車場や駐輪場の境界部周辺は、緑化に努め、緑量を確保しましょう。境界部に植栽を行う場合は、歩行者から自動車のガラスが見えないよう、植栽の高さは人の目より高くしましょう。



■ 設備機器周辺

○設備等が露出してしまう場合は、ルーバーや遮蔽する効果のある植栽等で隠したり、建物とのデザインの調和に配慮しましょう。

○遮蔽のための植栽は、枝葉の密生した樹種を選び、厚さ0.5m以上で、一定に仕上げると遮蔽する効果が高まります。

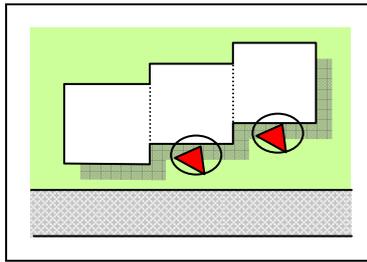


③ まちなみを彩る

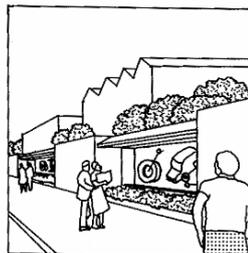
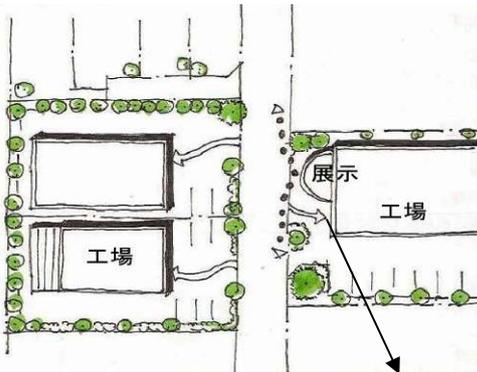
形態意匠

■ 建物の形態意匠

- 建物は、周辺との調和やまちなみとの連続性に配慮し、周辺に圧迫感を与えないデザインとするよう努めましょう。
- 大壁面の連続を避け、壁面に凹凸をつけて分節化したり、雁行配置としたり、色彩などによって壁面に変化をつけることで単調な連続を避け、ボリューム感の軽減に努めましょう。



- 工場の通りに面する部分は、可能なかぎり、工場での製品の展示スペースを設けるなど、ショーウィンドー化を図りましょう。



■ 建物の色彩

- 建物の色彩は、周辺と調和しない原色や突出色を避け、彩度の低い落ち着いたものとしましょう。
- コーポレートカラーは、ワンポイントで使うなど、周辺景観との調和に努めましょう。

■ アンテナ

- アンテナ類は、CATV化や集中化を図り、無秩序に林立することがないようにデザインに配慮しましょう。

■ 広告物

- 広告物は、雑然とした印象とならず、すっきりと存在感を主張できるよう、数や大きさ、色づかいなどのデザインを工夫しましょう。
- 周辺の環境や設置する建物との調和を図りましょう。

素材

■ 擁壁

- 擁壁の素材は、自然素材や緑化ブロック、その他の景観上良好な意匠を施した化粧ブロック等を積極的に採用しましょう。また、目地にも変化をつけるなど、周辺への圧迫感を軽減するような措置を施しましょう。



右写真:擁壁に緑化ブロックを使用した事例

■ 建物

- 外壁の素材は、耐久性、耐候性、退色性を考慮しましょう。
- 屋根の素材は、輝度の高い金属板等の使用は避けましょう。

その他

■ 演出

- ショールームを設置したり、製造工程が見学できるようにするなど、地域に開かれた工場空間としてイメージアップに心がけましょう。
- 休業日の工場敷地内のオープンスペースの一部開放等、積極的に市民の憩いの場となる広場を創出しましょう。

